

# 算数のプリントと漢字の関係!?

## 漢字が大の苦手のK君が…

小4の8月に入会したK君（小5）は、国語、特に漢字が大の苦手です。

お母さんは、「漢字がものすごく苦手で、読めないから他の教科にも影響が出ている」と、とても心配されていました。

ただ、「スペースわん」では、まずは算数から始めます。国語や英語は、算数の学習がある程度順調にできるようになれば、プラスしてやることができます。ですから、K君の場合も、国語をいきなりやるのではなく、まず算数のプリントから始めました。

算数のプリントをやってみると、日によってかかる時間にかなり波があります。また結構慎重派で、合格しても次に進みたがらなかったり、家であまりやれなかつた月もあつたりしました。

それでもなんとかやり続け、K君なりに少しづつ進んでいるのは、入会後数日のうちに、目安3分のプリントを毎日1枚ずつやって、7分台が次の日6分台に、次の日は5分台、その次の日は4分台、というふうに絵に描いたように時間が縮まっていって、ミスも減り、6日後に3分台ミス0でできるようになった体験があったからのように思います。

ただ、漢字をどうするかが問題。「らくだ」の国語のプリントを、小1のプリントからやり始めましたが、イヤイヤやってるのでとても雑で、「この調子でやってても意味ないんじゃないかな」という感じでした。

そこで国語の漢字に関しては選択肢を出して、「『らくだ』のプリントで楽な所からやっていくのと、学校で今習っている漢字を、学校のドリルを使って練習するのと、どっちがいい？」と聞いてみました。すると、「学校のドリル」という答

えが返ってきたので、ドリルを使って、「らくだ」のプリントのように練習する方法を本人とお母さんに伝えました。ドリルに書き込む前にコピーして、何度も繰り返しやれるようにしたり、書けなかつた漢字にチェックをつけて、その漢字をノートに繰り返し練習したり、いろいろと試行錯誤してきました。

そうやって練習してみると、小テストでいつも50点も取れていなかったK君が、85点取れたこともあります。でも、その時点では、やはりお母さん主導でやっていたようです。

## 「算数のプリントのおかげ」!?

ある日、お母さんが、「先生にぜひ報告しようと思って」と、次のように話して下さいました。

「Kは、このあいだ、自分一人で、1時間漢字の練習をやりました！ まず1回ていねいに写して、次に、答えを見ないでやってみて、まちがえたのを繰り返し練習するという形で、自分で1時間漢字を練習したんです！」

「漢字ぐらいのあの子が1時間も一人で漢字を練習するなんて信じられない！」という感じの話しぶりでした。そして、最後に「このプリントのおかげです」と言って下さいました。

さらにその後、100点満点を取った漢字テストを持って来られました。100点という点数もさることながら、お母さんは、K君が、「一人でこもってくる」と言って部屋に行き、自分で勉強して100点を取ってきたことを喜んでおられました。入会後、1年ちょっと経つてからのことです。私も、K君が、大嫌いだった漢字を「自分で」勉強するやり方を身につけたんだと思うと、とてもうれしくなりました。

そのことこそが、「らくだ」で身につけてほしいことなのですから。

## 算数のプリントから始めるのは？

「らくだ」の学習が「最初は算数から」となっているのは、このK君の事例と大いに関係します。

国語や英語のプリントも、算数同様自分で時間を計り、自分で丸つけし、自分で間違いを見つけて間違い直しをし、時間とミスが減るまで繰り返し練習します。「なら、国語や英語から始めてもいいのでは？」と思われるかもしれません、国語や英語のプリントよりも、算数の方が、変化がよりはっきりわかるのです。

算数は、「足し算がスラスラできないと、引き算やかけ算がしんどい」「足し算・引き算・かけ算がスラスラできないと、割り算がめちゃくちゃしんどい」「割り算までがしっかりやれていないと、分数の計算はものすごく時間がかかる」というふうに、積み重ねの重要性がはっきりしています。つまり、先に進んでいくと、「割り算や分数が苦手だったけど、足し算から順番にやっていったら、できるようになった」ということが実感しやすいのです。

また、一枚一枚のプリントにかかる時間やミスが減るのが、記録表によってはっきり目に見える形で表れます。めやす時間があることで、「足し算なんて簡単」「引き算もできるよ」と思っている子が、「やり方は知っている」「ゆっくりやったらできる」けど、「スラスラできない」ということがはっきりわかり、繰り返すことでの時間の変化が国語や英語よりも著しいので、このプリントをやることの効果を子ども自身が実感しやすいでしょう。

そして、「毎日やる」を実行しようとして

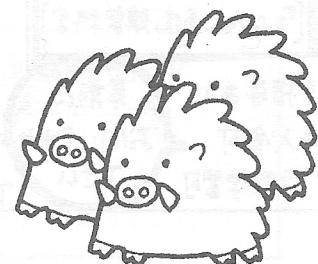
できない日が続いたら、「久しぶりにやると、前よりも時間がかかるしんどい」ということを感じたり、「自分で計算し、丸つけし、間違い直しをすると、自分の間違いの傾向がわかって、たくさんあったミスがグンと減った」ということを感じたり、といったプロセスの後に、「できるようになった」という実感があるわけです。

K君のように、最初、算数の簡単なところでそういう変化を実感すると、国語や英語も同じようにやっていけば力がつくのだということが、本人自身わかります。だから、「らくだ」のプリント以外の他の勉強でも、このやり方を応用すればいいのだということも、伝わりやすいのだと思います。

しかし、それが伝わって実行に移るまでには、やはり時間と試行錯誤が必要です。その「時間」と「試行錯誤の量」は人それぞれ。でも、大前提是、「算数で自分の変化を実感すること」なので、まず算数のプリントから始めるわけなのです。

「自分で学ぶ」姿勢は、まず算数のプリントを「自分でやることから始まり、「自分で丸つけ」「自分で間違い直し」「自分で記録表に記入」をやって自分の変化を目の当たりにすることで、「できなかったことができるようになる自分」を実感しながら徐々に身についていくのだと思います。

漢字ぎらいのK君の変化は、算数のプリントと、漢字をはじめ他の勉強の仕方や姿勢とのつながりを改めて感じさせてくれたのでした。





今月の一言

「2次関数」や「三平方の定理」などの中学教材は、結構難しく、今までなら投げ出していたと思うのに、投げ出さなかったですね。

中学教材では、初めてやるプリントに、  
90分とか1時間かかった時もありましたが、  
それでもやりました。  
難しいことに対する「とっつきにくさ」がなくなり、  
「とにかくやってみよう」と思いました。

「らくだ」は、わかるまでできるのがいいですね。  
「できないからダメ」じゃなくて、  
「できなくてもいい、答えを見ていいから、  
そのあと自分でできるまで何回もくり返す」  
というのがいいです。

生徒さんの生の声を紹介するコーナーです。今回は、先月号のこのコーナーで紹介したAさん（高3）のお母さんの言葉です。

「+1」ばかりの小1-1のプリントから始められ、中学教材の最後の中3-54（三平方の定理）まで終わった後にお聞きしました。

プリントをやった日の記録表には、必ず、プリントをやっての一言が書かれてあり、それを読ませていただくのが楽しみでした。

ちなみに、初めてプリントをされた日の一言は、「子どもにやり方を教えてもらう」でした。また、中3-54がミス0で合格した日は、奇しくもAさんが大学に合格した日！「母子共に合格の2文字に酔いました～あ」と書かれていました。先日いただいたお手紙には、

「らくだの威力、一時休止して益々深みにはまりそうです」「再度向き合えたらと考えています。だって止めた途端に脳ミソがぬるくなり始めてますので」とありました。

うくだ教材で学ぶ塾 スペースわん / 幼児から大人まで 年齢不問

学習日 月・火・木(祝日休)  
PM 2:00-9:00  
週1~3回(原則は週1回)

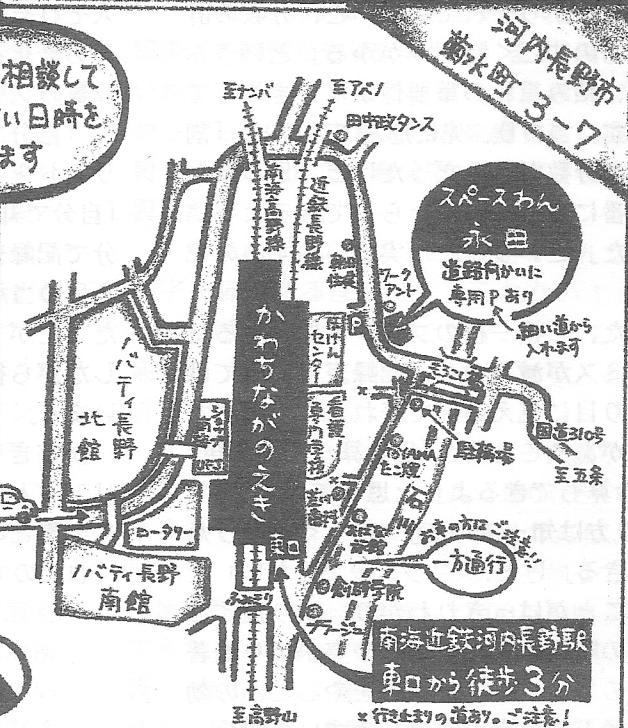
指導者と相談して  
都合のよい日時を  
決めます

**科 目 算数・数学・国語・英語  
(原則として最初は算数から)**

1家族 ¥15.000- (税込)  
「セルフランニング」どの子にも学力がつく  
(平井霧太薫)を 入会時に進呈

週何回来ても  
何科目学んでも  
￥10,000- (税込)  
【スペースから通信】講読料含

通信指導あり  
随時入会可  
見学・体験学習可



TEL&FAX 0721-54-3301 指導者 永田仁美